

II 各団体の防災活動～現在の取り組み状況～

1. 集計表

防災対策・備蓄状況等の把握（調査）を実施した。以下、「防災訓練の実施」「災害時要援護者対策の実施」「防災マニュアルの作成」「他団体との連携や協定の締結」「区との災害時要援護者協定の締結」について整理している。

(1) 防災訓練の実施

(平成28年7月1日現在)

町会名	防災訓練の内容
等々力協和会 地域防災部	・玉堤小・尾山台小避難所運営訓練等 ・D型ポンプ操作訓練
和敬会東部 地域防火防災部	・尾山台中避難所運営訓練 ・町会独自の防災訓練 ・救命救急講習会 ・さつき荘での避難介助訓練 ・ナオミホームでの放水訓練
和敬会西部 地域防火防災部	・玉川小避難所運営訓練 ・町会独自の防災訓練 ・救命救急講習会
等々力三和会 防災本部	・等々力小避難所運営訓練 ・ポンプ放水訓練
等々力六丁目町会 防災本部	・八幡中避難所運営訓練 ・自由ヶ丘学園との防災訓練
尾山台1・2丁目 地域防災部	・玉堤小避難所運営訓練 ・独自の防災訓練
尾山台3丁目町会 地域防災部	・尾山台中避難所運営訓練 ・スタンドパイプを使った消火訓練 ・救命救急講習会
玉堤町会 地域防災部	・玉堤小避難所運営訓練 ・救命救急講習会 ・福祉施設との防災訓練 ・東京都市大学との防災訓練
尾山台商栄会 商店街振興組合	・尾山台小避難所運営訓練 ・救命救急講習会

(2) 避難行動要支援者対策の実施

(平成28年7月1日現在)

町会名	取り組み
等々力協和会 地域防災部	・日頃からの見守り活動
和敬会東部 地域防火防災部	・特に実施していない
和敬会西部 地域防火防災部	・特に実施していない
等々力三和会 防災本部	・特に実施していない
等々力六丁目町会 防災本部	・日頃からの見守り活動 ・年2回の家庭訪問
尾山台1・2丁目 地域防災部	・日頃からの見守り活動
尾山台3丁目町会 地域防災部	・資材の備蓄、役員への周知
玉堤町会 地域防災部	・日頃からの見守り活動 ・要援護者体験などの啓発活動
尾山台商栄会 商店街振興組合	・特に実施していない

(3) 防災マニュアルの作成

(平成28年7月1日現在)

町会名	作成の有無	町会名	作成の有無
等々力協和会 地域防災部	・予定なし	尾山台1・2丁目 地域防災部	・検討中
和敬会東部 地域防火防災部	・予定なし	尾山台3丁目町会 地域防災部	・予定なし
和敬会西部 地域防火防災部	・予定なし	玉堤町会 地域防災部	・検討中
等々力三和会 防災本部	・検討中	尾山台商栄会 商店街振興組合	・予定なし
等々力六丁目町会 防災本部	・検討中		

(4) 他団体との連携や協定の締結

(平成28年7月1日現在)

町会名	他団体との連携・協定	町会名	他団体との連携・協定
等々力協和会 地域防災部	・特になし	尾山台1・2丁目 地域防災部	・他団体と連携
和敬会東部 地域防火防災部	・他団体と協定	尾山台3丁目町会 地域防災部	・特になし
和敬会西部 地域防火防災部	・特になし	玉堤町会 地域防災部	・他団体と連携
等々力三和会 防災本部	・他団体と連携	尾山台商栄会 商店街振興組合	・特になし
等々力六丁目町会 防災本部	・他団体と連携		

(5) 区との災害時要援護者協定の締結

(平成28年7月1日現在)

町会名	締結の有無	町会名	締結の有無
等々力協和会 地域防災部	・締結済	尾山台1・2丁目 地域防災部	・締結済 (尾山台自治会のみ)
和敬会東部 地域防火防災部	・予定なし	尾山台3丁目町会 地域防災部	・締結済
和敬会西部 地域防火防災部	・予定なし	玉堤町会 地域防災部	・締結済
等々力三和会 防災本部	・締結済	尾山台商栄会 商店街振興組合	・予定なし
等々力六丁目町会 防災本部	・締結済		

Ⅲ 等々力地区の方針と今後の取り組み

等々力地区では、平成26年度から防災塾を実施し、地区の防災の課題を掘り起こして、地区の方向性を検討してきた。これらの成果を分析して、次に示す3つの柱に整理し、等々力地区の方針として定めて地区防災力の向上に取り組んでいく。

1. 命を守るために備える

日頃から家庭や地域で災害への備えをし、災害発生時に適切な対応ができるように一人ひとりが取り組む。

1.1 備蓄【自助】

水、食料を家族が7日間以上生活できる分を用意する。

〔その他用意しておく便利なもの（一例）〕

- ・カセットコンロとガスボンベ→ガスの復旧は遅れることが予想される
- ・ラジオ、電池→正しい情報を得るため
- ・水洗トイレを使用できない場合に備えて、簡易トイレなどを用意する。

※その他備蓄品の詳細については、世田谷区発行の「災害時区民行動マニュアル」のP5～7および東京都発行の「東京防災」のP84～93を参照。

1.2 安否確認方法の確認【自助】

家族で、災害時の集合場所やどのように行動するのか話し合い、災害時にしっかりと安否確認ができるように、日ごろからその方法を確認しておく。

- ・集合場所と緊急時の連絡先を決めておく
- ・災害用伝言ダイヤル「171」、災害用伝言板「web171」、各携帯電話会社の災害用伝言板サービスの利用方法を、いざというときに使えるように普段から練習しておく。

1.3 自宅の安全性を高める【自助・公助】

避難所は、狭いスペースで空調もなく、プライバシーの問題やトイレ、伝染病、ペットの課題など、生活環境としては過酷な場所である。特に高齢者や障害者、妊娠されている方、乳幼児にとっては問題が多く、避難所に行かずに、住み慣れた自宅で在宅避難ができるように自宅の安全面の向上に取り組む。

- ・耐震診断と耐震補強の実施・助成制度の利用
- ・家の中の安全性を高めるための家具の固定・助成制度の利用
- ・家具を固定できない場合は、寝室に背の高い家具を置かない

2. 命を守るために行動する

災害が発生したときは、「自分の身は自分で守る」、「自分たちのまちは自分たちで守る」という心構えと行動が大切である。命を守るために、どのような行動を起こすのか、日ごろから考えておき、災害発生時に適切な対応ができるように一人ひとりが努める。

2.1 自分と家族の身を守る【自助】

自分の身を守る。次に家族・親類の安否を確認する。また、可能であれば近所の方々の安否確認を行う。

2.2 初期消火【自助・共助・公助】

近所で火災が発生していた場合は、可能な範囲で初期消火にあたる。火災は初期のうちに消火しておくことが、被害拡大防止の鍵となる。一家に1台は消火器を用意しておくことと安心である。また、地域の防災力を高めるスタンドパイプなどの資機材の普及のために、より一層の助成制度の充実と街路消火器の増設を区に対して要望する。

地区住民としては、防災訓練に積極的に参加し、街路消火器、D型ポンプ、スタンドパイプなどの器具をしっかりと活用できるように日頃から訓練等に参加するよう努める。

また、玉川消防団第3分団、第9分団は初期消火の先導役としての役割を果たすとともに、地域住民もその活動を理解し協力していく。

2.3 避難所の開設【共助】

各避難所（学校）の避難所運営委員会を中心に、動くことが可能な人で協力し合って避難所を開設する。

- ・避難場所の確認、調整、設営
- ・避難者の受付
- ・防災倉庫の物品の活用（資機材、水、食料）

2.4 避難行動要支援者の移送等【共助・公助】

自力で避難が困難な避難行動要支援者については、避難所に避難した方々の中から、若い人を中心にグループを編成し、行政からの情報とあわせて、安否を確認し、必要に応じて避難所へ移送する。

2.5 物資の管理・配給【共助】

物資の輸送経路等に問題がなければ、数日後に物資が避難所に搬送される。避難所運営委員会を中心に、動くことが可能な人を募って仕分け・配給を行う。また、配

給された物資は、避難所に避難している人だけでなく、在宅で生活している人にも公平に行き渡るように考慮する。

- ・調達食料の仕分け、管理、配給などの役割分担を行う
- ・避難所に避難していない方への物資に関する情報提供と配給方法の検討を行う

2.6 情報の収集【共助・公助】

ラジオやテレビの情報は、市区町村レベルの比較的広域な情報が中心となる。等々力地区の情報を収集するために、地元の情報（地域住民のネットワーク、エフエム世田谷、SNSなど）と行政からの情報を収集・整理し、正しい情報を共有する。

3. 防災意識を高める

大震災の直後は、防災意識が高まるが、日を追うごとに薄れていく。防災意識を持ち続けるためには、日頃のPRと訓練が不可欠である。

3.1 地域行事は防災意識を高めるチャンス【共助】

地域行事は、直接に防災とは関わりがないように思われがちであるが、その準備のための会合や共同作業に参加することで、お互いに顔がわかる関係をでき、そしてその中で培われた人脈は、いざというときに人と人をつなぐネットワークとして機能する。地域のイベントは、地域の楽しいひとときであるだけでなく、地域を救う大切な活動であり、しっかりと継続していく。

3.2 防災リーダーを育成する【共助・公助】

地域活動、地域行事を行うときは、様々な役割分担があり、それぞれにリーダーが存在する。このリーダーは、地域の多くの方々に知られている人材で、災害時にはリーダーとなる可能性を秘めた人材である。災害時は混乱しており、ただリーダーシップがあるだけでは、乗り越えることは難しく、日頃から信頼のある地域に知られた人物が地域には必要であり、地域行事はこのような人材を育てるよい機会である。

今後は、できるだけ多くの方がリーダーとなれるように、より実践的な訓練を行い、即戦力のあるリーダーを育てていく。また、これらのリーダーに、より防災の知識を身に付けてもらうため、専門的な研修の実施など、行政に働きかけていく。

3.3 防災訓練の実施【共助・公助】

各避難所（学校）で実施している避難所運営訓練をより実践的な内容に改善し、実施していく。また、できるだけ町会や商店会単位でも、防災訓練を行い、一人ひとりが生き延びるための術を身につけられるよう進めていく。

3.4 防災情報の周知PR【共助・公助】

自助、共助への意識を高めるために、正確な情報をしっかり伝えていくことが大切である。行政と連携し、等々力地区区民防災会議などの組織を活用して、防災情報を発信していく。また、若い世代が得意とするインターネットなどの知識を活用して協力を得ながら、今までの周知方法では、届けることができなかった若者への情報発信の方法を検討する。

[より多くの方々に知っていただきたい防災に関する情報（一例）]

- ・ 防災倉庫には、避難した方々の1日分の食料しか備蓄されていない
→各自がしっかりと水・食料の備蓄をする必要がある。
- ・ 避難所のスペースには限界があり、空調がなく、プライバシーや衛生上の問題など過酷な生活環境である
→避難所に行かなくてもすむように自宅を安全にする。
- ・ 災害時は通常の連絡手段は使えない
→日頃から家族や親兄弟で、伝言ダイヤルなどの非常時用の手段を練習しておく。

■今後の取り組み

地区の計画や方針は、一旦つくれば終わりではなく、常に内容を検証し、状況に応じて改善していく必要がある。また、すぐに解決策を打ち出せない課題も多く、粘り強く検討していかなければならない。

[様々な課題（例示）]

- ①避難行動要支援者の確認・移送方法、福祉施設への振り分け
- ②ペットの避難場所、管理方法
- ③東京都市大学の防災関連の研究室との連携や大学生の協力・役割分担
- ④避難所運営のリーダーやスタッフが限られた人員となっていることによる負担集中の緩和
- ⑤避難所と在宅避難者との間の情報共有や物資の公平な配給
- ⑥避難所におけるトイレの確保と管理方法の検討
- ⑦若者への効果的な情報発信の検討

資料編

●D級ポンプとスタンドパイプのメリット・デメリットについて

	メリット	デメリット
D級ポンプ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防火水槽や簡易水槽、消火栓等、水があればなんでも活用することができる。 ・ スロットルと放口で圧力調整ができるため、圧力の調整がしやすい。 ・ スタンドパイプと比べて、水量が多く、消火能力が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 搬送には二人以上の人手が必要となる。 ・ 定期的に発動機のメンテナンスが必要である。 ・ 解放した蓋に落下の危険が生じる。
スタンドパイプ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 搬送がしやすい。 ・ メンテナンスがほとんどない。 ・ 操作がD級ポンプに比べて手順が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 使用水利が消火栓のみである。 ・ 圧力設定が容易ではない。 ・ D級ポンプに比べて水量は少ない。 ・ 消火栓は蓋の種類が多数あり、開閉に若干難しいものがある。 ・ 蓋の開閉の際に、蓋に足を挟まれるなどの危険が生ずる。